

## 平成23年度 海外派遣教員を励ます会

平成23年2月26日（土）に上記の会が、岡山アークホテル1Fレストラン「ラ・ペーシュ」で開かれました。岡山駅の近くで、便利が良く、貸しきりでも良心的な料金のため、本会の行事としておなじみの会場でした。

参加者は42人で、今回派遣される6人の内5人が参加されました。それでは、以下に会の様子をお知らせいたします。



山本純平先生は、倉敷市立万寿小学校から香港日本人学校に派遣されます。先生は奥様と2年生・6年生・中学2年生のお子様を同伴され出席されました。男の子は野球をされていて、香港には野球のクラブがないため心配しましたが、子どもたちの方が卓球やバスケットボールがあることを知り、興味をもっているようで、そのたくましさに驚いたそうです。現地では2年生の担任や、研究・情報などの分掌が決まっているそうです。今回27人の教師の内半数以上の14人が変わるので、岡山の誇りをもって、責任を果たしていきたいと決意を述べられました。香港が決まった時に、仲間から香港は恵まれているなあとうらやましがられました。確かに環境は恵まれているでしょうが、厳しい派遣先でがんばってくる先生方に負けないようにがんばりたいです。また



帰国後は、現地で学んできたことをしっかりと教育の場に還元して行きたいと思います。次に、奥様からは、海外派遣の希望は聞いていたが、駄目と言っていた。すると、年齢が高くなって、もうあまりチャンスがないので、青年海外協力隊でも行きたいと言われ、やむを得ず了承したそうです。折角行くからには、良かったなと振り返れるように、しっかりと楽しんできたいと話されました。



八木由紀子先生は、津山市立西小学校からニューヨーク日本人学校に派遣されます。ニューヨーク日本人学校（The Japanese School of New York）は1975年にニューヨーク州クイーンズにアメリカ合衆国で最初に開校した北米で最も古い日本人学校です。その後、児童・生徒数の増加により、1992年にニューヨーク州の北に隣接するコネチカット州グリニッチに移転しました。現在の児童生徒数は、約250人となっています。学校の敷地は緑豊かな素晴らしい環境で、鹿やうさぎやリスが校庭に現れたりします。今年で35周年を迎える歴史と伝統のある学校です。早く現地の生活に慣れ、本会を支え盛り立てて来られた先輩方の期待にそえるように、岡山県の代表としてがんばってきますと話されました。



黒瀬格先生は、岡山市立後楽館中学校からモスクワ日本人学校に派遣されます。体育の担当でしたが、現地では中学校ではなくて、小学校の担任をすることになるそうです。初めての体験に困惑しているということですが、新しいことに進んでチャレンジして下さい。お子様は6年生と中学2年生です。キャンプがみんなの趣味だったので、ホテルに泊まれるのを今から楽しみにしているそうです。モスクワは、冬はマイナス20度にもなるそうです。今からどれだけ寒いか体験するのが待ち遠しいです。次に、奥様からは、岡山養護



学校に勤務していたが、休職して行けるので、今までほったらかしていたお子様やご主人を、しっかり支えていきたいと、述べられました。そして、この休職して行ける制度を生かして、帰国後は勤務校の子どもたちに還元して行きたいとのことでした。



岡崎主馬先生は、岡山市立津島小学校からバンコク日本人学校に派遣されます。今回で壮行会に出席するのは3回目ですが、希望していた派遣が決まり、大変うれしいということでした。今回も、派遣希望の若い先生が2人参加されています。この会は、派遣希望者にとって、参考になる情報がたくさんあり、しかも身近に感じることができる素晴らしい会です。さて、バンコク日本人学校は、上海日本人学校と並び世界最大の日本人学校です。児童生徒数は、2千人を超え、バスは200台もあるそうです。もう10クラスある3年生の担任が決まっています。帰国後は、またこの会の自分に与えられた係で、しっかりお役に立ちたいです。次に、奥様からは、現在勤務している大井小学校が3月に閉校となるので、学校と家族の荷造りで大忙しです。現地では、2才の息子の世話やご主人の弁当作りなど家事をがんばり、家族全員の健康をめあてにしたいと話されました。



岡崎主馬先生は、岡山市立津島小学校からバンコク日本人学校に派遣されます。今回で壮行会に出席するのは3回目ですが、希望していた派遣が決まり、大変うれしいということでした。今回も、派遣希望の若い先生が2人参加されています。この会は、派遣希望者にとって、参考になる情報がたくさんあり、しかも身近に感じることができる素晴らしい会です。さて、バンコク日本人学校は、上海日本人学校と並び世界最大の日本人学校です。児童生徒数は、2千人を超え、バスは200台もあるそうです。もう10クラスある3年生の担任が決まっています。帰国後は、またこの会の自分に与えられた係で、しっかりお役に立ちたいです。次に、奥様からは、現在勤務している大井小学校が3月に閉校となるので、学校と家族の荷造りで大忙しです。現地では、2才の息子の世話やご主人の弁当作りなど家事をがんばり、家族全員の健康をめあてにしたいと話されました。



大河原崇視先生は、備前市立伊里中学校からテヘラン日本人学校に派遣されます。テヘランに決まると知らされた時は、どうせ行くなれば普通の海外旅行では行けそうにない所がいいと思っていたので、ラッキーと思いました。現在は、中学2年生の担任をしていますが、現地では小学校5年・6年生の担任となります。異文化をしっかりと体験し、日本を違う角度から見られるようになって帰って来ます。岡山県の代表としてがんばりたいですとお話しされました。次に、奥様からは、ご主人はテヘランと知って喜んだけれど、とても不安になって



何日か眠れなかったそうです。しかし、よく調べてみると、イランの人たちは、温かくて心の広い人なんだと分かってきました。向こうに行ったら、じゅうたん作りとか現地の料理とか語学とか、何か一つ手に職をつけて帰りたいと、今では覚悟を決めていますと話されました。

今回の壮行会では、会員の先生方から貴重なお話がたくさんありました。最後にいくつかを紹介します。

#### 都築勉会長

このように壮行会が盛大に行えてうれしいです。特に、今回はお子様がたくさん来られています。私も娘が小学校1年生の時に派遣されました。娘には、おばあさんがいる松山よりちょっと遠い所に行くんだよと伝えると、飛行機に乗れることを無邪気に喜んでいました。平成3年当時、シンガポールでは日本のテレビは全く放送していませんでした。帰国の年にやっと一週間に一度、日曜日の夕方1時間だけ放送が始まったのです。ところが、今では携帯電話ではいつでも話ができるし、インターネットではリアルタイムに日本のニュースを知ることができます。家族にとってはうれしい状況でしょう。しかし、仕事の上では、いつまでも日本を向いているのではなく、現地の飛び込んで行ってほしいのです。現地で首を長くして待っている子どもたちや学校関係者、そして日本人会に対し、岡山の先生は熱心だと言われるようにがんばって来て下さい。



#### 藤井昭平顧問

私は、岡山県の派遣が始まる時に、県の学事課長をしていました。財務の方から、よその国へ行って教育する先生の給与を、なぜ県が支払わなければならないのかと言われ、毎日将来の岡山の教育のためには、目には見えないが素晴らしい財産となるからとお願いに行きました。そして、昭和46年だったかディッセルドルフに三宅先生、リマに南井先生を派遣することになったのです。以後、毎年2人ずつの先生を送り出すことになりました。しかし、今と違い海外の情報が乏しかったため、三宅先生を中心に帰国教師の会を作ることになったのです。それが、この会の原点です。当時は世界で40足らずしか日本人学校はありませんでした。その後、帰国教師も200人を超え、みなさんが教育の現場でリーダーとして活躍しているわけです。今回派遣される先生方も、不安と希望は抱き合わせと思いますが、岡山の代表として、また日本の外交官として、自信と誇りをもって活躍してください。



### 森崎岩之助顧問

私は、30年ほど前に派遣の先生の書類を担当していました。その当時は、文部省から関西地区での面接官をしてほしいと依頼があり、大阪で西日本の先生方の面接を何年かさせてもらいました。その時に、岡山の先生はみんな優秀だったと記憶しています。自信をもって海外で活躍してください。そして、岡山に帰ってきたら、子どもたちにその体験を自分の言葉で話してください。きっと子どもたちは、大きな感動をし、学習意欲をもったり夢をもったりすることでしょう。現地では大変なことも多いでしょうが、健康に留意して、いい研修をしてきて下さい。



### 武泰稔参与

乾杯の音頭の前に、皆さん方をお願いします。ぜひ帰国後、末永く出席し、本会を盛り立てましょう。会員一人一人がこの岡山県国際理解研究会をより発展させるためには、この壮行会や帰国歓迎会、研究会などに参加することが大切です。どうか今回派遣される先生方、未知の世界で貴重な体験を積んで、帰国後も本研究会の核となって活躍してください。



### 多田賢一副会長

閉会のあいさつをします。実は、私はアムステルダム・蘇州と2つの日本人学校に派遣され、また24年度にシニアとしても3回目の派遣を予定されています。みなさんもぜひ、このシニア派遣にチャレンジしてみてください。現在岡山県からは、2名の方がアメリカにシニア派遣されています。さて、今回香港に派遣される山本先生は、私の教え子です。もうそんなに成長したのかと感慨深いものがあります。ここで、私の妻からのメッセージもお伝えします。妻は、3年連続で文部科学省の同伴者研修に講師として招かれています。まず、飛行機に乗ったら、日本の常識は捨てようということです。例えば、外国では約束の時間に遅れたり出来なかったりするの日常茶飯事です。外国にはその国のルールがあります。それに従っていきましょう。次に、保護者とは、仲良くなるのはいいのですが、ぼけながら付き合っていくでしょう。学校のことを知りたいと言われると思いますが、守秘義務をよく肝に銘じて下さい。また、心や体のことで気になったら、我慢せずに一時帰国しましょう。言葉が通じにくい医療を受けて、乳がんが進行し、亡くなった例もあります。以上が、妻のメッセージです。最後に、派遣の時には「笑顔で元気に」行ってきてください。そして、帰国の時には「元気に笑顔で」帰って来て下さい。

